

# 尾瀬ネットワーク通信

Vol 1 1. No. 3 2008 年 11 月



## 目次

野生ジカ管理体制の早急な整備を	1
平成20年度指導員養成講座	2
福島側携帯基地局設置反対署名活動	2
平成20年度第2回尾瀬ヶ原シカ調査	3
群馬側携帯基地局設置反対署名活動	4
小至仏で救護活動行方	5
指導員養成講座 修了者レポート	5
事務局だより	6

## 野生ジカの保護管理体制の早急な整備を

～増加する野生ジカとの共生を目指して～

理事長 永島 勲

ニホンジカは、ウシ科の草食動物で昼間は主に森林地域にいて、牧野・湿原・農地・伐採跡地等の開放的な場所には夜間侵入する。栄養状態が良ければ2歳で出産するほど旺盛な繁殖力を有する。

(社) 日本山岳会自然保護委員会の報告書「いま、高山植物が危ない！」～高山帯におけるシカの食害について考える～(平成20年7月発行)には、南アルプスをはじめ各地の山岳地帯で野生ジカによる深刻な被害の実態が報告されている。

報告書の表紙には、野生ジカの大群によって占拠された夕闇迫る入笠牧場(長野県高遠町)の写真が載っていた。牧場を闊歩する野生ジカの群れに愕然とした。この牧場を尾瀬ヶ原に置き換えてみると、野生ジカに占拠され「シカ牧場」となった尾瀬ヶ原の無残な光景が浮かんできた。

### 尾瀬の野生ジカの現状

ネットワークでは平成12年から毎年2回、尾瀬ヶ原(山の鼻～竜宮間、4.2km)でライトセンサス法(注)による個体数調査を行ってきた。本年3月に調査報告書「尾瀬ヶ原にシカを探す」～シカ調査8年の歩み～を発行した。調査結果から野生ジカの個体数は年々着実に増加している。本年6月の調査では一晩で104頭のシカを確認した。調査初年度(平成12年6月:24頭)と比較すると4.3倍の増加である。最近では昼間、御池～沼山峠口間の車道でもシカを目撃するようになった。

個体数増加につれて高山植物の食害やヌタ場、シカ道等による湿原の荒廃(掘り起こしや裸地化)が目立つようになってきた。おそらく尾瀬ヶ原はシカにとって魅力的な餌場に違いない。

今年の5月上旬の観察会では沼山峠付近でシカの糞や足跡を多数確認した。積雪は1.3メートル、

薄暗いオオシラビソの森はチシマザサが雪に埋もれて視界が良く、締まった雪は意外に歩き易く、尾瀬周辺における越冬の可能性を感じた。

今夏の大江湿原のニッコウキスゲの花は全滅に近い状態だった。その原因は食害のほかに遅霜や乾燥化等、複合的な要因が考えられるが、繁殖力の強い野生ジカをそのまま放置しておけば、近い将来湿原の生態系は壊滅的な影響を受け、特定の種の絶滅を招くことも考えられる。

### 野生ジカの計画的な保護管理

以前は尾瀬に生息していなかったニホンジカがなぜ増加したのか、その原因や背景は専門家に委ねるが、いずれにしろ人為的な影響により自然界のバランスが崩れたことによるものと考えられる。

今、尾瀬は植物や動物が相互に生態系のバランスを安定的に保つ、という難しい問題に直面している。尾瀬の繊細で豊かな生態系を後世に伝えるために、野生ジカとの共生は極めて重要な課題である。

生息状況(生息数、行動圏、生活圏等)や被害状況の把握に加えて、尾瀬国立公園における生息密度の基準値など、科学的データに基づく計画的な個体数調整とそれを検証する継続的なモニタリング調査等の保護管理体制の整備が急務である。

具体的には個体群の安定的維持と湿原植生の被害軽減を目標に個体数削減と被害防除対策、生息環境の整備、さらに法制度の整備を含めた生態系バランスの確保を総合的にかつ早急に実施することを強く訴えたい。

(注) ライトセンサス法とは夜間、木道上から湿原や林縁にビームライトを照射し(200～300m遠方)、シカの眼球の反射光で個体数をカウントする。

# 活 動 報 告

## 平成20年度指導員養成講座

指導員養成講座担当理事 前田 佳胤

平成20年度尾瀬自然保護指導員養成講座は、東京での室内研修及び現地研修とも当初予定されたスケジュールが無事終了し、10名の指導員が誕生しました。

今年度の現地研修は昨年までのコースを変更し「尾瀬ヶ原」「尾瀬沼」双方を歩き、変わりつつある「尾瀬」また「負の遺産」を体感した。

受講生の皆さんは、それぞれ思いをもったことと思います。今年度は(財)日本自然保護協会に協力いただきネットワークの紹介と養成講座受講生募集を会報「自然保護」に載せていただき自然観察指導員の方々からの受講申込が多数ありました。お礼を申し上げます。

### 1、実施日

室内研修：平成20年7月26日(土)  
「ジャンダルム会議室」

現地研修：平成20年8月22日(金)  
～24日(日)

場所：鳩待峠 → 山の鼻 → 竜宮 →  
ヨッピー橋 → 東電橋 → 赤田代  
見晴 → 白砂峠 → 尾瀬沼 →  
三平峠 → 大清水

### 2、宿舎 赤田代「温泉小屋」、戸倉「一仙」

### 3、受講生(あいうえお順、敬称略)

葦原義人(埼玉県)・荒尾繁志(千葉県)・  
磯部たい子(東京都)・大山昌克(埼玉県)・  
亀山良吉(千葉県)・熊田順子(福島県)・  
小林恵子(福島県)・鈴木誠一(埼玉県)・  
千葉早苗(神奈川県)・深澤秀明(群馬県)

### 4、講師 永島 勲、磯部義孝、椎名宏子、 前田佳胤、鎮目安康



<山の鼻の植物研究見本園にて講義>

## 福島県側「携帯電話アンテナ基地局」 設置反対署名活動

福島県側担当理事 円谷 光行

7月21日(月)に初めて行われた署名活動の状況等については前回の8月号：ネットワーク通信で報告済みなので、8月～10月に渡って3回行われた活動状況を報告します。

### ★8月30日(土)～31日(日)の活動状況

『静かな尾瀬を守るために携帯電話の基地局はいらない』を合い言葉にできるだけ多くの署名を頂くため、携帯電話基地局建設反対の署名活動日を特別に設定して行われた。この2日間は、昨年8月30日に尾瀬国立公園の誕生を記念して檜枝岐村が「尾瀬の日」に定めた日で、これを契機に今年度は「自然公園ふれあい全国大会」が尾瀬(檜枝岐村)で開催されたことは、私達にとって願ってもない絶好の活動日となった。

入山指導で毎回行っている啓発活動場所の山の駅御池は、全国大会に常陸宮殿下ご夫妻、環境大臣、大会関係者が訪れるため警備上署名活動はご遠慮いただきたいとの指導があり、2日間沼山峠駐車場の会津バスのテントを借りて行なった。

署名活動の場所には幟旗を2本立て、机の前には携帯電話基地局絶対反対の表示板を掲げ、さらに参加者全員「静かな尾瀬を守ろう」のゼッケンを胸に着けての活動を朝7時半から午後3時まで行なった。

この場所は、尾瀬登山者が下山して一息ついてバスに乗るところで、尾瀬の美しさを知っているハイカーや、その魅力を堪能したハイカーが多いため、幟旗などに目を止めて積極的に署名してくれる方々や、体調を整えているハイカーに近づき、尾瀬の様子を聞きながら反対運動の趣旨を説明すると署名をしてくれる方々、中にはそっぽ向いて通り過ぎる人、「緊急時どうするの」と不愉快な言葉を言って帰る人がいた。時間が経つとハイカーの仕草や動きで署名をしてくれる方々を分かるようになり、また、言葉をかけなくても「大変ですね、頑張ってください」と応援を頂くこともしばしばあり、活動をして良かったと喜びを感じた。



斉藤環境大臣へリーフレットとピンバッチを  
贈り署名運動を伝える

署名活動2日目の31日(日)11時頃、環境大臣が尾瀬の植物がニホンジカの食害に合っている状況や尾瀬沼周辺を視察するために、大型バスで我々が署名活動をしている沼山駐車場に到着した。これはチャンスと斉藤鉄夫大臣のところに行き、永島理事長からネットワークのリーフレットとピンバッチを贈るとともに、静かな尾瀬を守るため携帯基地局建設反対の署名活動をしていることを伝えた。その際に大臣から「頑張ってください」という言葉があった。



< 斉藤環境大臣に挨拶する永島理事長 >

初谷理事に感謝：署名活動の企画・準備・実施

手探りの状態から活動の素案をまとめ、協議の結果を踏まえての実施にこぎつけることができたのは、初谷 博理事のきめ細かい周到な準備作業があったからである。

幟旗を上げて行うなどの斬新なアイデアや、思い切った行動が率先垂範の形で行われ、指導員がとまどうことなく、尾瀬を守らなければならないという強い姿勢が伝わり、全員が勇気を持って活動することができた。

<参加者氏名>

磯部義孝、小林ミヨ、円谷光行、永島 勲  
初谷 博、藤田隆美

署名者人数 109人



< 8月31日：沼山峠における署名活動 >

★9月14(日)～15日(月) および  
10月12(日)～13日(月)の活動状況

9月と10月の活動は、署名活動・バス添乗解説・資金カンパの3点セットの非常にハードだが、やりがいのある活動を展開した。

早朝からハイカーも多くフル回転となり、休憩もままならず3点セットに全員奮闘する姿を頼もしく感じた。運悪くバスにはマイク設備のない一般乗り合いバスに当たり、大声で自然の大切さや美しさに声を枯らしての解説は、尾瀬を心底から守る一種の醍醐味ではないかと受け止めた。

夏にネットワーク指導員養成講座を受講され修了された指導員のうち、9月の活動日に千葉県流山市の亀山良吉さん、10月には埼玉県さいたま市の大山昌克さんが活動に参加いたしました。署名活動や募金活動も積極的に呼びかけを行うとともに諸先輩のバス添乗解説の方法や内容を学習するなど、活動の感触をつかんで頂いたのではないかと思います。

<9月活動参加者>

磯部義孝、伊藤アケミ、大橋文江、亀山良吉、小林ミヨ、円谷光行、藤田隆美

(特別参加協力者)阿部様、石川様、佐久間様

署名者人数 145人

<10月活動参加者>

大山昌克、小林ミヨ、坂本敏子、円谷光行、永島 勲、藤田隆美、前田佳胤、前田悦子、深山美子、

署名者人数 290人

<<活動の結び>>

7月は試験的に始めたが、8月からは諸準備を整えて本格的な活動に入り、尾瀬入山者から毎回現地で貴重な署名(福島側合計586名)を頂きました。また、ご意見や種々の言葉を頂きましたことを重く受け止め、感謝するとともに目的達成に最善を尽くさなければと強く感じました。

平成20年度第2回尾瀬ヶ原 鹿調査

シカ調査担当理事 前田 佳胤

- 1、日 時： 平成20年9月6日(土)  
20時(尾瀬ロッジ発)～24時(帰着)
- 2、コース： 山の鼻～竜宮
- 3、調査方法： ライトセンサス法  
(約200m単位でライトを照射)

4、天 候： 曇り → 雨

5、確認頭数： 24頭

6、状 況： 当日は昼ごろから雷を伴った激しい雨が降り、尾瀬ロッジ出発時にはやんでいましたが、途中でまた雨になるという変わりやすい天候の中での調査でした。

林縁からはシカの鳴き声が聞こえていましたので、ライトの光が届かず姿は見えないものの林には多数のシカが居たと推測されます。

同じ時間に尾瀬高校は見晴を出発し山の鼻に向けて調査を行っており、牛首付近ですれ違った際に発見頭数を聞いたところ見晴～牛首間で19頭とのことでした。

今回の調査では新しく指導員となった皆さんも積極的に参加し、バッテリーやライトの操作等使用法の研修になったと思います。

野生のシカによる被害が全国的に大きな問題となり、尾瀬においても環境省がやっと重い腰をあげ、適正数への駆除方法が検討されている今、シカ調査を中断する事は得策ではないと思いますが。従来通り行うか、あるいは手法を変え・場所を広げて（変更して）行うのか、検討する時期に来ているのではないのでしょうか？

<シカ調査参加者>

荒尾繁志、池田稔夫、伊藤アケミ、亀山良吉、坂本敏子、鎮目安康、清水博之、千葉早苗、長島睦世、前田佳胤、深山美子、向井京子、芦田南美子、松澤 登

## 群馬県側「携帯電話アンテナ基地局」設置反対署名活動

群馬県側担当理事 前田 佳胤

1、実施日：第1回目 平成20年 9月6日(土)  
第2回目 平成20年10月4日(土)～5日(日)

2、実施場所：鳩待峠

3、参加者：第1回目  
荒尾繁志、伊藤アケミ、亀山良吉、坂本敏子、鎮目安康、清水博之、千葉早苗、永島 勲、長島睦世、前田佳胤、深山美子、向井京子、芦田南美子、松澤 登

署名者数 59名

第2回目 鎮目安康、千葉早苗、永島 勲、前田佳胤、坂本敏子、清水博之、

鈴木誠一、特別参加：高田さん

署名者数 523名

第1回目は花も少なく、草紅葉には早い時期のためか入山者も思ったより少なく鳩待峠はいつもより閑散としているように感じました。午前中の活動を終える頃、嵐のような天候に見舞われテーブルや幟等の機材を仕舞い2時間ほど停滞した後、夜の活動準備の為に山の鼻に向かいました。

わずかな時間ではありましたが活動に賛成した多くの人達が署名をしてくれ心強く感じました。

第2回目は天気にも恵まれ、また紅葉の時期とも重なり、鳩待峠は人であふれていた事も幸いして署名活動は順調に行われました。

幟を見て自らテーブルまで足を運んでくれた人、我々の説明を聞いて賛同してくれた人、個人で、リーダーが率先してグループごとに署名用紙を持って行って仲間の署名を集めてくれた人、千葉芳山のグループは千葉で署名活動をすると言って用紙を数枚持っていった、遠くは九州から地元群馬、様々な人達が「尾瀬に携帯はいらない」「応援するから頑張る！」と話しつつ署名に応じてくれました。尾瀬を訪れた人々の思いと善意により鳩待峠での3日間の総署名者数は582件となり大きな成果を挙げることが出来ました。署名をくださった皆さんに心から感謝します。

尾瀬も携帯が必要との意見も当然あり「尾瀬でも携帯を使いたい」「けがをした時にどうすれば良いか?」「マナーを啓蒙すれば静かな尾瀬は守れるのでは?」、某旅行社の添乗員からは「仕事の連絡で携帯が使えないと困る。アンテナを早く建てて使えるようにしてほしい」などの意見も寄せられました。

今回の署名活動では尾瀬林業(株)には機材の保管などに便宜を図って頂きました。



<9月6日：鳩待峠における署名活動>

### 小至仏で救護活動行う

10月4日千葉指導員と友人の2人が、小至仏付近の岩場で転倒しケガをしたハイカーの救護活動（傷口の洗浄、消毒・止血の応急処置）を行った。

2人は午前の署名活動を終え、小至仏まで行き偶然ハイカーが血を流して倒れているのに遭遇した。

ケガ人はY旅行のツアー登山に参加し、遅れたため添乗員から待つように言われたが、追いかけて転倒し石に頭をぶつけ4箇所（箇所）の裂傷を負い意識混濁のまま倒れており、通りかかった登山者がタオルで傷口を押さえていたところを千葉指導員等が見つけ処置したものである。鳩待峠からは鎮日理事がサポートのために急ぎ登り、無事に鳩待峠まで下山させた。

この日の鳩待峠は観光バスで埋め尽くされ、Y旅行関係のバスだけでも10台以上が駐車していた。鳩待峠に残った永島理事長と前田の2名は署名を集めながらバスを1台ずつ回り、また下山してきたグ

ループに確認を行ったが添乗員同士の繋がりが無く、ケガ人が乗ってきたバス・グループがわからないでいた。

ケガ人を鳩待峠まで下山させ止血をしながら休ませていると該当のツアーが下山してきたので、引率していた山岳ガイド（みなかみ町の元山岳救助隊員）と添乗員に説明し救急車で沼田の病院へ搬送した。ケガ人は、病院では外科的処置を受け、電車で無事帰宅したそうである。

今回幸いだったのは、救護した千葉指導員が看護師であったので適切な処置ができ、大事故にならずに済んだことである。

山ではいつ救護の必要があるかわからない、基本的な救急法を勉強しておく事が肝要であると感じている。

その後Y旅行とケガ人から理事長と事務局あてに  
お礼の電話があった。

（前田 佳胤）

## 指導員養成講座 修了者レポート

### 尾瀬自然保護指導員研修会を終了して

荒尾 繁志

NACS-Jの研修を終えやっとスタート台に立った矢先に、尾瀬自然保護指導員の研修を受けることになったのは、尾瀬がとても魅力的な場所でありもっと知りたいと言う気持ちからです。また、素晴らしい講師の皆さんのご指導で気付いたことは現場第一主義だということ、その為には時間がかかるとは思いますが、尾瀬に咲く草花の名前だけでなく幅広い知識を身に付ける必要があるということで、私自身も磨かねばならないようです。

私が尾瀬に興味を持ったきっかけは、確か高校三年の春、仲間と尾瀬に行こうと企画しましたが、いろいろな理由で計画がつぶれ、就職し仕事に追われて機会を逸してしまったのです。当時人気のあったブルーガイドブックでルートを探し、ビバークしながら一週間ほどのルートを何本か選び担当教師と地図を目の前に論議したことを思い出します。そのときの憧れが、今も頭にあるのです。

東京での座学、そして現地での二日間。自然保護運動の発祥地「尾瀬」をここまで知ることは大変有意義でありました。また尾瀬ヶ原の草原化が思ったより進んでいたこと、そして負の遺産としてみたゴミの山はショックでした。磯部さんのお

話を聞きながら許されるならば林縁から押し出しているヤマドリゼンマイ、アブラガヤ、アシ、ササなど乾燥化を推し進める植物を、出来るならば片端から重機を入れてでも抜き取りたい、運び出したいと思ったのは私一人ではなかったと思っています。

こんな姿に変身させた原因はたくさんあると思いますが、地球規模で起こっている温暖化が考えられます。その一因となっている私たち人間の生活環境の変化が、本来、地球の持っている温暖化の速度を早めたのかもしれませんが。いまさら昭和30年代の生活には戻れませんし、さらに生活環境を良くしようとしての開発が、現在も大規模に推し進められています。

そんな中で「尾瀬の自然を保護するためには何が出来るのか？」と考えると、尾瀬国立公園を守る多数の法規制の中で出来ることとは、本当に少ないことだということを感じました。そこで思い出した言葉ですがNACS-Jが唱えている「自然観察から始める自然保護」（だったと思いますが）を推し進め、NWで観察したデータを「これだけ尾瀬の自然環境が悪化している」と題したリーフレットを作成し、入山する方をはじめ、関係する行政（省庁を始め県・市・町・村）、企業などへ



感想文

鈴木 誠一

訴えるのは如何かと思っています。そう尾瀬の環境状態（健康状態）が悪化している現状を、たくさんの方々に発信する必要があるということです。

（HP もそのひとつの手段だと思いますし、すでに実施されていると思いますが・・・）

今、登山者のマナーが悪くなっていると言われているようですが、登山ブームの中で誰も教えなかった付けだだと思いますし、受け入れ側も営利が先で目をつぶっていたのではないのでしょうか。悲しいことです。

しかし、これからもたくさんの方の入山者があるでしょうから、素晴らしい尾瀬を守るために最低限必要なマナーを守ってもらうための努力をしたい。その為に前述したパンフレットを活用したいと思います。多少、入山者から嫌われ者になるかもしれませんが、このあたりが私に出来ることのようなのです。

最後に、今後も更なるご指導ご鞭撻を、よろしくお願いいたします。

日本には数多くの山や川、湖などに恵まれた大自然の豊かな国なのに、その中に住む私達人間は古代から作られ・・・自然という名の与えられた貴重な物を、自分達で気付かない内に破壊しようとしています。

コンビニでガソリンより高い天然水を買う人でさえ居るのに・・・その自然界が作り出す人や動植物の為に水や酸素、また季節の元 山や木や川などを壊し、後世に残さないといけない自然界を元に戻れない様にしている姿を今回の講習会で見て聞いて驚きました・・・空き缶の捨て場などは愕然とするものでした。

また、鹿の被害に付きましても自分の想像を超えた、物凄く酷いものだと判り驚きを隠せません。

この様な事から 自然保護活動の必要性と緊急性が浮き彫りになり、早くに人々に判ってもらう為にも、また警鐘を聞いて貰う為にも、保護活動の場を与えて頂いた事に感謝いたします。

（注）他の修了者のレポートは、次回以降に掲載予定です。



<磯部講師による講義>



<ヨッピー橋の上にて>

事務局だより

- ① 8月5日 東京電力用地部 高野部長殿を訪問 永島、椎名
- ② 8月8日 朝日新聞福島支局 足立様来訪 携帯トイレ取材
- ③ 8月19日 産経新聞大阪支局 林様 電話取材
- ④ 8月28日 片品村役場むらづくり観光課を訪問 永島
- ⑤ 9月4日、5日 沼尻ゴミ撤去作業に参加 永島
- ⑥ 9月25日 緑の地球 来年度助成申請提出
- ⑦ 10月17日 小至仏で怪我した岡庭様から御礼

NPO 尾瀬自然保護ネットワーク

Vol.11 No.3号 2008年11月20日 発行

発行人：永島 勲

編集担当：鎮目 安康

Web担当：島田 富夫

〒100-0014

東京都千代田区永田町 2-17-5-203 (株)SEC 内

電話 03-3851-0321/FAX 03-3581-2178

Web : [http://www.geocities.jp/oze\\_net/](http://www.geocities.jp/oze_net/)

